

“不断の自己改革”を实践！

『経営・振興三ヶ年計画』2年目、苗木助成対象品種を拡大！

苗木助成 1本あたり500円（上限500本／1組合員年間）

対象品種…ひらかつがる、うまじろう、宮美ふじ、紅虎、コスモふじ、平成美人

NEW 華宝、シナノスイート、ジョナゴールド

※ただし、当JAのリンゴ出荷組合員であり、購買課経由で購入したものに限りです。

※令和5年秋苗木から対象とします。

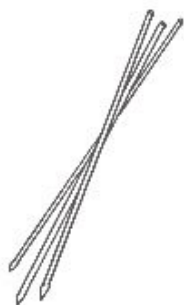
よく分かる 苗木の植えかた

今回の苗木助成品種拡大を受けて、植えかたについて特集します。このページを切取って、保存版としてご活用ください。

準備物



よく掘れるスコップ
もしくはユニボ



支柱
(苗木1本につき1本)



苗木
(必要数)



テープなど
苗木を支柱に固定するもの



バケツ
土壌改良資材を混ぜ合わせるもの



カップ
土壌改良資材を計るもの

消毒剤（どれか1つ）

	倍数	白紋羽病	紫紋羽病	浸漬
フロンサイドSC	500倍	○	○	約20分
ベンレート水和剤	1,000倍	○	×	約10分
トップジンM水和剤	500倍	○	×	約10分

土壌改良資材

堆肥	10kg
熔リン	1kg
苦土炭カル	500g

春植えの場合

- 大量の水
- 大き目の樽（苗木を2日間浸す用）
- ワラやビニールマルチなど、乾燥防止資材。
- 灌水に必要なもの

秋植えの場合

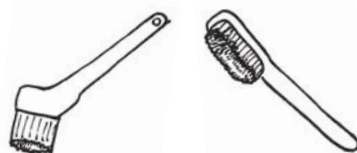
- ワラや大判のクラフト紙、もしくはホワイトンパウダー※（凍霜害から苗木を保護するための資材）
- 殺鼠剤や防鼠材（苗木ガードなど）

※ホワイトンパウダー、ホワイトンペーストを準備する場合は、下記も準備しましょう。



株式会社原田種苗
販売課長 工藤 隆樹 氏

春植えはとにかく乾燥を防ぐことが大切。苗木を保護しながらしっかり“樹”に育てられるように、植え方と管理について教えていただきました。



ハケや洗車ブラシ



バケツと水

植えかたの手順

※春植えの場合に必要な手順について春と表記しています。

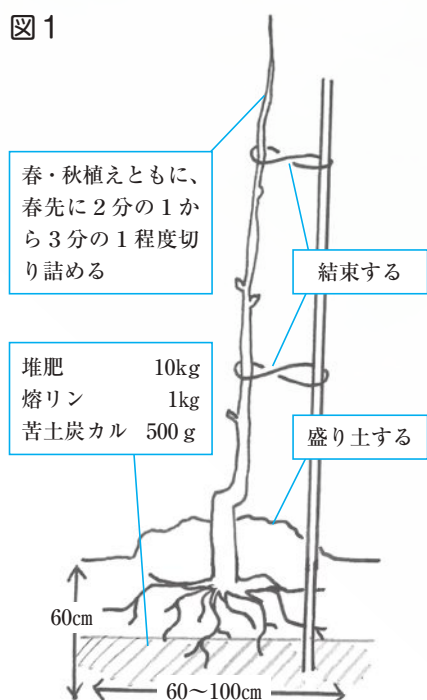
春 定植2日前から大きな樽などで根を浸水しておく。乾燥防止のため。

1. **消毒** 苗木を消毒液に、規定の時間浸す。
2. **土壌** 植穴を掘り、土壌改良資材として堆肥10kg・熔リン1kg・苦土炭カル500gの割合で土とよく混和して、埋め戻す。図1参考。初めに耕運して土を細かくしておく、根が張りやすくてgood！

春 穴に水をたっぷり入れる。泥植えにしても良い。

3. **植付け** 接木部分に接木テープが残っていたら取り除く。初めに、根を3分の1程度切り詰め、放射状に広げて定植する。根が短い場合でも、先だけ少し切ることで、伸びが良くなる。

図1



4. **深さ** 丸葉台、ハイブリット苗は下の接木部分を地上に出す。わい性台木は台木部分の半分が出るように植える。盛り土をして乾燥防止にたい肥を被せても◎深植えになると根腐れして死んでしまいます。排水が良くない園地は特に注意！
5. **鎮圧** 定植後は根元を踏んで鎮圧すると早く生育する。
6. **支柱** 支柱を立ててヒモなどで固定する。根付きやすくなると同時に、太陽に向かって真っすぐに伸びるようになる。

越冬について 接木部分が特に凍害が起こりやすい。凍霜害、ネズミ対策のため苗木の接木部分を中心に、ホワイトンパウダーを積雪深まで塗る、苗木ガードを巻く、米袋のような大判のクラフト紙や厚紙を巻くなど対策を。ホワイトンパウダーを塗布すると、無処理と比較して約10℃程度の違いがあるので凍害防止効果が高い。M9自根やM9T337系の場合は、樹が大きくなるまで継続した方が良い。

その他

- 春植え**で降雨のない時は、水を朝晩やる。勢いよくやると流れてしまうので、しっかり根元の土に染み込むように少量ずつ。乾燥防止のためワラやビニールマルチをすると生育もよくなる。
- お盆前までに葉面散布など肥料を入れ、その後はとめる。すると9月中には芯や新梢の伸長がとまり、今度は樹が太くなる。また、あまり上に伸びて越冬すると、春に先端だけ芽が出なくなることや、樹全体が死んでしまう場合もあるため、お盆前までで肥料をとめることが大事。
- 伸びは悪かったとしても、1年目にしっかり根付かせれば、2年目によく伸びる。凍霜害対策は2年目も継続して実施する。黄色品種や高密植苗木は特に寒さに弱いため、対策は必須！

参考：原田種苗2023カタログ、りんご協会『りんごニュース』第3276号

苗木の保管方法

秋苗木を購入し春植えにする場合など、すぐに植付けできない苗木については仮植えや冷暗所で保管しておく。冷暗所での保管は仮植えより凍害やネズミによる被害が少なく、比較的簡単。やり方は、乾燥防止のために、苗木の根を湿らせた新聞紙で覆い、ビニール袋等で包む。次に苗木全体を毛布や反射資材で覆い、樹体の乾燥と冷気から守る。保管する場所は、冷蔵庫もしくは土蔵など光が入りづらく温度変化の少ない場所が望ましい。車庫などの窓がある場所は温度変化が起こりやすく、袋内部で結露と凍結を繰り返して凍害に遭う可能性が高いため、保管場所には注意が必要である。温度を0℃以上に設定し、冷風が直接当たらない場所に保管する。土蔵の場合は入口から離し、コンテナや木箱を1〜2段積んだ上に苗木を置くことでネズミによる被害や下からの冷気を防ぐことができる。定期的に袋の中を確認し、乾き気味の状態であれば随時、湿らせた紙を巻いていくことで一定の湿度を保ちながら安全に保管できる。